

## 論文審査の要旨

博士の専攻分野の名称	博 士 ( 学 術 )	氏名	ZAENAL MUTAQIN
学位授与の要件	学位規則第 4 条第 1 項・ 2 項該当		
論 文 題 目 Comparative Analysis of Convergence on Regional Economic Integration: The Eurozone and ASEAN			
論文審査担当者 主 査 広島大学大学院国際協力研究科 教授 市橋 勝 審査委員 広島大学大学院国際協力研究科 教授 金子 慎治 審査委員 広島大学大学院国際協力研究科 教授 吉田雄一郎 審査委員 広島大学大学院国際協力研究科 准教授 後藤 大策 審査委員 国際大学 教授 宮本 弘暁			
〔論文審査の要旨〕 本研究の目的は、タイプの異なる経済統合の経済パフォーマンスとその安定性を、EU と ASEAN において比較分析することである 論文は全 8 章で構成されている。第 1 章は地域経済が経済統合に向けて進化する過程を発展段階的に素描し、EU 地域と ASEAN との間での相違点を中心に、本研究の目的や課題の設定が行われている。第 2 章は両地域の経済統合に向けた歴史的経過と、両地域でのマクロ経済的指標を概観している。第 3 章は先行する研究についての紹介と分類を行ない、大きく四つに分けられた研究群に対応する形で各章が分析される。また、方法論としては Difference in Difference 分析を中心とした計量的手法を共通して用いている。第 4 章は、EU の危機的状況について周縁国と中心国とで影響の違いを分析し、実は中心国では周縁国ほど状況が悪化していない結果が示された。第 5 章では、EU 内での Maastricht 基準の状況と Cronbach 収束計算をユーロ導入前後の期間について行い、また ASEAN はアジア通貨危機前後の期間について分析している。その結果、ASEAN ではタイが高いパフォーマンスとなっている一方で、各国の収束状況は EU ほど高くないことが示された。第 6 章では、経済変数変化の要因分解と、収束速度の比較が行われた。その結果、ASEAN の実質生産高の成長は高い労働生産性によってもたらされていることが分かった。また、生産調整の速度は EU のほうが ASEAN と比較して高いものの、ASEAN では労働流動性が高いことが示された。第 7 章では、経済統合への参入国を拡張した場合に、パフォーマンス改善効果があるかどうかを分析している。その結果、EU ではメンバー拡張効果が正であった一方で、ASEAN ではオリジナルメンバーでの効果が高いことが分かった。第 8 章は各章での分析結果から得られた結果をまとめ、政策的含意を述べている。 なお、本論文の主要内容は、開発経済学分野の査読付き国際誌にこれまで論文 2 編が採択されている。以上、審査の結果、本論文の著者は博士(学術)の学位を授与される十分な資格があるものと認められる。			